



【人生の逆転と勝利】

聖書本文:士師記11:1-11/暗唱:詩篇23篇4節

説教者:鄭南哲牧師

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間も主の平安でみなさんの心も体も守られましたか。我々は先週士師記に出てくる12人の士師の中で最後の裁きつかさであったサムソンの失敗を通していろいろ学ぶことができました。裁きつかさ(士師)の意味はヘブル語で‘ソペティ、ショペート(shophet)’と言いますが、意味は言葉どおりに裁きつかさ、治める者(judge)という意味を持っています。イスラエルに神様によって王が立てられる前の約350年間、神様は12人の裁きつかさを立たせ、彼らをイスラエルの民たちのために用いてくださったのです。

今日の本文の裁きつかさのもう一人であったエフタは先週サムソンのように勇士でありましたが、それ以外には大分サムソンとの環境や背景、そして人生は違いました。士師キデオンの時代が終わってから、二人のトラとヤイルという人たちが続いて裁きつかさとしてイスラエルで働いていました(士師記10:1-5)。しかし、イスラエル人たちはまた罪を犯します。その時、神様はアモン族がイスラエルに攻撃し、特にそのためギルアデの人たちは苦しめられていた時に現れた人物です。

<1.士師エフタ(Jephthah:意味:“彼が開いた”と言う意味)の背景>

今日はイスラエルの士師の八番目の士師であったエフタについてともに御言葉をとおして考えたいと思います。神様に選ばれたイスラエルの指導者、もしくはイスラエルの軍隊の指揮官だったとはいえみなが祝福された家庭や環境で育てられたわけではありません。エフタの場合は信仰ぶかい家庭でもなく、むしろ生まれる頃から不幸な環境や状況で成長しなければなりません。エフタの父であったギルアデという人は、若かった頃、関係をもった遊女とのあやまちによって子をさずかり、生むようになります。それにしてもギルアデという人は良心的だったのかエフタを自分で育てます。たとい遊女から生まれた出生背景でしたが、エフタは頭もよく、戦いも上手で、リーダーシップがあったようです。いつからかははっきり分かりませんが、エフタは神様を信じて、信仰を持って育てられたようです。おそらく小さい頃から抱いていたその信仰のゆえに、小さい頃から他の人と違ったさまざまな逆境や苦しい時をよく乗り越えて来たと思います。しかし、まわりの環境はますます苦しくなります。問題は父であるギルアデが正式に結婚をしてさらに多くの息子たちを産んでからでした。小さい頃はただ自分だけなんとか我慢すれば(なぜ自分はこんな風に生まれたのか、自分はお母さんもないなどの自分の中の迷いなど)大丈夫だったのが、子供たちが大きくなればなるほど、喧嘩はひどくなり、問題が大きくなって来ます。つまり、きっとギルアデの妻から生まれた子供たちはエフタをいじめたり苦しめたと思います。家の家族たちがみても遊女から生まれた息子は勉強も上手で、何をしてもすぐれた能力をもっているのに、妻から生まれた子供たちはそれには及ばさないことには相当の気がかりだったでしょう。エフタは家では優れても問題児みたいに扱われたのではないかと思います。

ところが、さらい問題は深刻な状態になります。突然、父のギルアデが早くも世を去ってしまったのです。イスラエルの法として妻から生まれた子供以外には財産を分けることはできませんでした。それにもかかわらず、エフタは遊女からの息子でもありましたが、あまりにもすぐれたためほかの兄弟たちに目障りの存在で結局ほかの兄弟たちはエフタを家から追い出すことにします。自分たちの力では足りなさそうなので、町の年配の方々の力をも借りて追い出すことに成功します。“この汚い遊女の子供が我が家の財産を奪おうとしている。”“えいっ！お前のような汚いものはこの町にいてはならん。出て行け！”

みなさんも、だれかがみなさんの親についてとか、家の環境や自分の弱点についてうんうんされると、プライドが傷つけられ、もう我慢できないと思います。しかし、エフタは小さい頃からの出生だとか、家庭の環境などを用いて人々から言われ、いじめられてもぐっと続けて忍耐することができました。エフタはののしられても、いじめられてもサムソンのように感情的にならず、そのまま仕返しせず、信仰をもって我慢しました。それにもかかわらず家の兄弟たちは財産を分けたくないためエフタを追い出してしまったのです。ただ追い出したのではなく、ほぼ町から追い払われたのです。二度とイスラエルに現れるなど脅かされたかも知れません。エフタがしがみついてもしかたがありませんでした。

<2.苦しい状況においても神様からいただいた信仰と才能を生かすエフタ>

そんなエフタは悲しみもだえてイスラエルから離れないといけません。エフタはいまのシリアにあるトブというところまで逃げてきました。そして、そこで住み着きますが、あまりにもすぐれた才能とリーダーシップもあり、人間関係のよかったため、人々がエフタのところに寄せられてきます。遠くから人々が来てはエフタとともにしたいのだと懇願し、集ります。この人たちは社会で罪を犯した人たち、人々から疎外され、捨てられた人たち、仕事がない人たちなどでした。しかし、エフタはこの人々を全部受け入れともに生活します。あつという間に何十人、何百人になります。この中で、リーダーとなったエフタはそこで神様から与えられた才能を生かして、希望を失った人々にチャレンジを与え、寄せられた来た人々を訓練し、教えました。

愛する信仰の家族のみなさん！もしエフタが兄弟たちから追い出されたとき、人生を悲観し、恨めしく“神様、どうしてですか、どうして、私だけにこんな苦しいことばかりさせて...”‘どうして私だけ遊女の母から生まれさせ、こんなに無視され追い出されるようにさせるのですか。’“私にどんな罪があるのでしょうか？ どうして私だけにですか。？もう疲れ果てています。もうこれで終わりです。！”

自分の人生を悲観したあまり、自殺を図ったり、自分を苦しめた兄弟に復讐したというエフタの内容は聖書に記録されていません。かりにそうだったのであれば、エフタは聖書に記録も、士師として選ばれもしなかったでしょう。しかし、エフタは自分の人生を悲観しませんでした。世の人々が全部自分を捨てても自分には神様がおられますからという信仰があったからです。“たといつらくて、苦しい、寂しい人生であっても私にはいつも私を捨てない、私とともにおられ、助けてくださる神様がおられるから。”という信仰を握っていました。“ほかの人は私を裏切り、変わっても神様は私を決して見捨てることも、離れることもされない変わらないお方だ。！”こんなつらい人生であっても、神様がこの世に生まれるように許し、ここまで命を守って下さったことにはきっと私への目的と使命があるだろうとそう信じていたように感じられます。彼にはこのような信仰があったゆえに自分の人生をあきらめたり落胆したりする

ことがなかったのです。最近、若者や学生たちをみると、すこしつらかったり、くろしかったりするとすぐあきらめ、すぐ落胆し、忍耐しようともしないですぐ感情的になったり、悲観的になりやすい傾向があることを見ます。最近では小学生たちですら自分の人生を悲観し自殺を選んでしまいます。しかし、エフタの現実のみじめでしたが、信仰だけは続けて握って守りました。最後まで神様のみにたよりつづけました。

エフタを見ると、その以前他創世記に出て来るヨセフと結構似ているように見えませんか。ヨセフは金持ちの家の息子として生まれましたが、兄たちに憎まれ、兄貴たちによってエジプトに人身売買(じんしんばいばい)され、奴隷になり、裏切られ、誤解されて牢獄まで入れられました。ヨセフも人生をあきらめはしませんでした。なぜなら、彼にも続けて神様を信じ頼っている信仰があったからです。みなさん、苦しい時、周りをふりむいて見ると、だれも見えない時があります。しかし、信仰の目をあげると見える方があります。それは主イエス・キリストです。インマヌエルの神様は今も、いつも私たちとともにおられます。ヨセフも、エフタもほかの人たちにより、傷だらけで、一生涯恨みと仕返しすることに執着したならば、未来と希望のない人生になったかも知れません。しかし、彼らは自分たちの中にあるくやしさを、自分たちに傷つけ、見捨てた多くの人々に感情的にならず、先週取り上げていたサムソンのように自分で直接仕返ししようともしませんでした。そして、その問題を完全に神様にゆだねまかせました。“神様、私の心をご存知でしょう！私の悲しみとくやしさをご存知でしょう！これらのことに私の信仰が揺るがされないように、心が苦しくて分かれないうように助けてください。仕返しするのは神にあると言われたので神様ご自身が解決してください。”彼はきつといつも神様の御前でこんな祈りをささげ続けたのではないのでしょうか。

<3.逆転させ勝利させる神様>

現実の問題にあきらめないで希望を神様に持ち続けてきたエフタについて神様はチャンスを与えて下さいます。神様の時に神様はエフタを高くあげて用い始めます。今自分の母国であるイスラエルには隣のアモン人たちからの激しい攻撃を受け危機に陥られているのに、イスラエルを救う勇士がだれもいませんでした。ようやく人々はエフタを思い出します。‘エフタがいたなら彼の知恵と力によって勝てるのに...いまエフタは何をしているのか?’トブという地に住んでいると聞いた国の有力者たちはエフタに助けを求めて来ます。すると、もし私なら、以前追い出されたことを覚え、断固と断ると思うのに、エフタはそうしませんでした。ギルアデの長老たちが切にお願いすると、エフタはそんなに待たず快く承諾します。

そして次のエフタが話した言葉に注目して見ましょう。9節をご一緒に読んでみましょうか。“エフタはギルアデの長老たちに言った。「もし、あなたがたが、私を連れ戻して、アモン人と戦わせ、主が彼らを私に渡してくださったら、私はあなたのかしらになりましょう。このエフタの言葉にはただ自分が国の王になるという内容だけでなく、神様が入っています。その言葉には神様が中心に刻まれています。“神様が渡してくださったら、神様が助けてくださるなら...”

11節をみると戦争に出かける前にエフタはイスラエルの民たちが礼拝してたミツバに行き神様に心を注ぎ出し、祈っています。もう一度神様との誓約を立てるエフタの姿を見ることが出来ます。エフタは苦しい人生を送ってきましたが、彼にはいつも神様が一番優先であって、大切だったという証拠です。エフタはいつも神様中心、神様優先の信仰を持っていました。

自分には神様しかないということです。信仰の面においてエフタは神様中心の徹底した信仰者でした。神様は神様の時にそんなエフタを士師として立たせ、彼をとおして逆転の勝利を許して下さいました。

愛する信仰の家族のみなさん！詩篇 121を読むと“私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこからくるのだろうか。私の助けは、天地を造られた主から来る。”の御言葉があるようにエフタがそうでした。神様はエフタにチャンスを与え、イスラエルの指導者として立たせ下さいました。世の人たちはエフタのうわべだけ見て遊女の息子だと無視し、彼を見捨てましたが、神様だけは彼の心の中心をみておられ、彼を祝福し、恵みを施して下さいました。

ですから、神様の御前では自分の出身、家の環境、学歴、財力、収入、能力などは全然重要なことでは決してありません！人はうわべを見て人を評価したり、比べようとしますか、神様はその人の中心！つまり、神様への信仰がはっきりあるかどうか、どんな信仰の心を持っているかのみが大切であることを決して忘れてはいけません。ですからみなさん！信仰が一番大切です。信仰が最優先になるべきです。どんな場合にも揺るがない信仰をもって神様のみに信じ続けて歩んで下さい。それがみなさんの人生も豊かに用いられ祝福される道であることを今日共に覚えて生きましょう。

私たちが苦しくて、疲れ果ててしまった時、苦しみを受けるたびに覚えるべき御言葉があります。それは詩篇23篇の御言葉です。“主は私の羊飼いです。私は、乏しいことはありません。”から始まる有名な箇所です。エフタにこの詩篇23篇の箇所から一番力となった箇所を選ばせたなら、きっと4節-5節の御言葉ではなかつたのかと思います。“たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわざを恐れませぬ。あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、私の頭に油をそそいでくださいました。私の杯は、あふれています。”

<まとめ>

愛する信仰の家族のみなさん！そうです。！エフタのような神様にいつも委ねる、頼れる、信じる信仰！を私たちも今日確かめしっかりと持ち続けてあゆみませんか。自分の状況がどうであれ、現実がどうであれ、“主は私の羊飼いです。..そうです。それで十分です。！”そしてどんなに今の自分の人生が死の陰の谷を歩いているとしても神様は私とともにおられることを信じているので恐れないうで、落胆しないでいられるのです。自分を無視し傷つけた人々にさえ、感情的になり自分の手で仕返しするのではなく、信仰を生かし、立たせ神様にゆだねきりましょう。今みなさんにどんな苦しみやなやみがあるとしても、神様がエフタにされたように、神様を信じるその信仰を最後まであきらめないでつかんでいれば、後はその信仰がみなさんを守り、みなさんの人生を逆転させついに勝利に導かれると信じます。今日、ここに集っておられるクリスチャンプレイズチャーチのみなさんも最後まで神様をみあげる信仰を強く握って、もう遅い。！もう終わったと思われるその時ですらも逆転させ、かならず勝利させる神様を共に経験する私とみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます。アーメン！